

ハディージャ・イスマイローヴァさんが釈放に！



Khadija leaving the prison on 25 May © Meydan TV

アゼルバイジャンで汚職と人権侵害を告発する取材活動で数々の賞を受賞しているジャーナリストで人権活動家のディージャ・イスマイローヴァさんが5月25日、釈放されました！最高裁が実刑3年6ヶ月の執行停止を命じたことで実現しました。

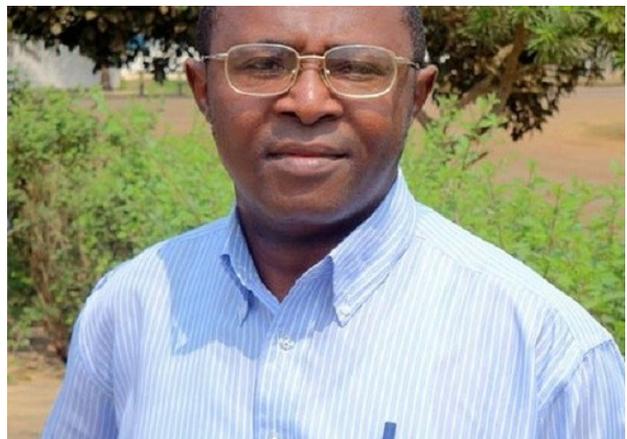
イスマイローヴァさんはこれまで、政府高官の人権侵害を取り上げた記事を多数発表してきました。その中には首相の家族が関わるものも含まれました。当局は、報復として国営メディアで彼女を誹謗中傷し、やがて横領、違法ビジネス、脱税、職権乱用などの容疑を捏造して起訴したのです。結果、2015年7月に実刑7年半の有罪判決を受けてしまったのです。

アムネスティは、逮捕直後からイスマイローヴァさんを良心の囚人と認定し、他の人権擁護団体と協力して釈放に向けたキャンペーンを開始しました。彼女はこの5月にはユネスコの世界プレス自由賞も受賞しています。当局の狙いは明らかで、人権活動や、腐敗した政府が告発されるのを恐れたためでした。いずれの罪状もまったく根拠がなく、有罪判決はあまりに不当でした。

今回の釈放は歓迎すべきことですが、有罪判決が棄却されなければ、本当の意味での正義を果したことはありません。アムネスティでは引き続き、同国で投獄されている良心の囚人の釈放を訴え、人権活動家やジャーナリストが自由な活動ができるよう訴えていきます。

アンゴラの活動家、マブンゴさんが自由に！

政府を批判した罪で実刑6年と罰金判決を受けたアンゴラのジョセ・マルコス・マブンゴさんの上告審が5月19日にあり、最高裁は有罪判決を破棄し、無罪を宣告しました。アムネスティのアンゴラチームは、釈放されたマブンゴさんと電話で話すことができました。マブンゴさんは「アムネスティが無罪釈放を求めて運動してくれたことが大きな力となり、今回の無罪を勝ち取ることができました」と喜びと感謝の気持ちを語ってくれました。



マブンゴさんは、昨年3月14日に、地元の州政府の悪政や人権侵害、公的資金情報の秘匿などの問題に抗議するデモの準備をしていたところを逮捕されました。マブンゴさんが活動する州はデモが禁止されていたのです。社会を扇動した容疑で起訴され一旦は有罪を受けましたが、上告審で証拠不十分だとして無罪を言い渡されました。しかし、裁判官は釈放ではなく再捜査を命じたため、勾留は続きしていました。昨年5月には国の安全を脅かしたという謀反罪で起訴されました。ただし、本人にこの起訴が知らされたのは1カ月後でした。2カ月後の7月に審理が始まり、9月には十分な証拠がないにもかかわらず、実刑5年、罰金（約4万円相当）の有罪判決を受けました。

アムネスティは、マブンゴさんの釈放に向けた緊急行動を何度も呼びかけました。アムネスティは、恣意的拘禁に関する国連の作業グループがアンゴラに示した提言に沿って活動してきました。同グループは、さらにマブンゴさんの釈放も政府に提案していました。

ロシアの活動家が精神病院から解放されました！

何の精神疾患がないにも関わらず精神病院に入院させられていた活動家のディミトリー・ヴォロビョフスキーさんが5月12日、裁判所の命令で軟禁を解かれ、釈放されました。

ヴォロビョフスキーさんは、ロシアのボレネツ市で政治犯などの支援や国の政策を批判する活動をしてきました。5月6日、自宅から拉致同様に連れ出され精神病院に強制的に入院させられました。何の精神疾患を持っていたわけでもないのに注射を打たれ、錠剤を飲まされました。弁護士が5月8日に面会したときは、普段と変わらない様子だったにもかかわらず、病院側に強制入院の理由を尋ねても、回答はなかったそうです。拘束は、彼が政策批判や抗議運動をしてきたことが背景にあるようでした。アムネスティも釈放に向けた活動を行いました。結果、5月12日の裁判で、入院させる理由は見つからなかったとして、釈放命令が下されました。

ウッドフォックスさんが総会にビデオ出演！

不当な裁判で43年の独房生活を強いられた昨年6月、自由の身になったアルバート・ウッドフォックスさんが3月初旬のアムネスティ米国支部の総会にビデオで出演してくれ

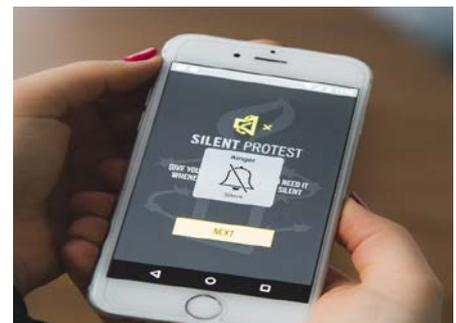


ました。ビデオの中で、アムネスティが自分の釈放のために闘ってしてくれたことにあらためて謝辞を述べ、人権活動を継続することがいかに社会を変える力になっているかを説いていました。このビデオは、こちらで観ることができます。 <https://www.youtube.com/watch?v=TjEvyPxnw4>

スマホアプリ「サイレント・プロテスト」について

アムネスティ国際事務局のデジタルチームは、「Silent Protest(無言の抗議)」というスマホ用アプリの試験運用を開始しました。このソフトは、危機にある個人を支援する画期的なソフトです。現在、日本支部でも導入するかどうか検討を進めています。ここでは、このアプリの特長をざっくりご紹介します。

使い方は、いたって簡単です。アプリをダウンロードすると、どの個人を支援するか尋ねてきます。あらかじめ登録されている「危機にある個人」3人の中から最大3人まで選びます。各ケースの内容は、フェイスブックのリンク先で確認することができます。次に、メッセージを発信するSNSをフェイスブック、ツイッター、Eメールのいずれかから選びます。これも最大3つまで選択することができます。これらの設定が終わると、アプリは自動的にバックグラウンドでの稼働を始めます。スマホがサイレントモードになると、アプリが感知し、選んだ個人のメッセージを指定したSNSから自動的に投稿します。サイレントモードになる度に、メッセージは投稿されますが、1つのSNSからは1日1回しか投稿されません。



UA ニュース

発行:アムネスティ・インターナショナル日本
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-12-14 晴花ビル7F
TEL:03-3518-6777 FAX:03-3518-6778
E-mail: uaoffice@amnesty.or.jp

UA 年会費 3000 円
郵便振替 00120-9-133251
加入者名 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本